

八王子市立中学校部活動検討会議 会議録

会 議 名	令和6年度第1回八王子市立中学校部活動検討会議		
日 時	令和6年7月11日（木） 午後6時30分～午後8時30分		
場 所	八王子市役所本庁 802 会議室		
出 席 者	<p>NPO 法人八王子市スポーツ協会                    会長    澤本 則男  八王子文化連盟    理事長 土井 俊彦  八王子レクリエーション協会                        顧問 塩澤 迪夫  中学校PTA 連合会    会長    廣田 貴子  上柚木中学校運営協議会                                会長    金村 真爾  大学コンソーシアム八王子                            主査    鎌田 正純  スポーツ推進委員協議会                                会長    青木 純  中学校校長会    校長    鴨狩 淳一  中学校校長会    校長    田野倉 教泰</p> <p>生涯学習スポーツ部長                    平本 博美  スポーツ担当部長                            佐藤 晴久  学校教育部長                                松土 和広  指導担当部長                                上野 和広  生涯学習政策課長                            田島 裕子  スポーツ振興課長                            吉森 研吾  スポーツ施設管理課長                        佐取 久満  放課後児童支援課長                        倉田 直子  統括指導主事                                福島 裕子  教育総務課長                                長井 優治  地域教育推進課長                            高橋 健司  学校施設課長                                武井 博英  学務課長                                      中野 みどり  教職員課長                                    櫻田 俊二</p>		
欠 席 者	小学校校長会	校長	平田 英一郎
議 題	(1) 資料説明 (2) 意見交換		
会議の公開・ 非公開の別	公開	傍聴者の数	2人
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度（2024年度）第1回八王子市立中学校部活動検討会議 次第</li> <li>・部活動改革の考え方・令和5年度 部活動検討会議のまとめ</li> <li>・令和5年度 八王子市立中学校部活動検討会 まとめ</li> <li>・部活動改革 令和6年度 4～7月の動き</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「八王子市の部活動改革」に係る検討事項</li> <li>・スポーツに関するアンケート調査（小学生）</li> <li>・スポーツに関するアンケート調査（中学生）</li> <li>・「八王子市の部活動改革」がめざす姿について（保護者向け資料）</li> </ul>
	<p>（１）資料説明</p> <p><b>平本部長：</b>只今より、検討会議を開催させていただきます。会議及び会議録の公開につきましては、「八王子市付属機関および懇談会等に関する指針」に基づき原則公開となっておりますので、本日の会議につきましても公開といたします。傍聴の方も1名いらっしゃっております。次第に従い、3の出席者紹介に入ります。事務局から紹介をお願いいたします。</p> <p><b>事務局：</b>それでは、私の方から本会議の出席者の方をご紹介します。（省略）</p> <p><b>平本部長：</b>それでは次第にそって議題を進めてまいります。次第4の報告でございます。これについて事務局から説明をお願いいたします。</p> <p><b>事務局：</b>それでは、八王子市の部活動改革の考え方について説明いたします。なお、令和5年度に実施した部活動検討会議につきましては、事前にお送りしたまとめをご参照願います。部活動改革の背景と目的についてです。主にこちらに記載したものが背景として挙げられ、これまでの学校部活動の維持・継続が難しくなっています。そこで「子どもたちの活動機会を確保し、子どもたちが生涯にわたりスポーツや文化芸術活動に親しめるようにすること」また、「教員が本来やるべき授業準備等に専念できるようにする働き方改革を推進すること」を目的に、「八王子市の部活動改革」を令和6年度から、段階的に実施していきます。</p> <p>「八王子市の部活動改革」の全体像がこちらのスライドで、令和8年度までに本市の部活動改革が目指す姿となります。部活動改革の背景や目的を踏まえ、「学校部活動の再編」と「地域と連携した活動」について、学校教育部と生涯学習スポーツ部が連携し、取組を進めております。この図の各部分につきまして、これから説明をさせていただきます。</p> <p>それではまず、「学校部活動の再編」に向けた3つの取組についてご説明いたします。先程の図と併せてご覧ください。1つ目が、4つのカテゴリーの部活動の設置です。現在、学校にある部活動を「運動系ゆるやかに親しむ部」、「運動系トレーニング部」、「文化系趣味的教養部」、「文化系技を極める部」の4つのカテゴリーに位置付け、年度ごとに段階的に再編していきます。基本、これらの部活動は教員の勤務時間内で活動し、顧問も複数名でローテーションで行うなど、教員の負担を軽減するかたちで実施します。2つ目は、特色ある部活動の設置です。「この学校と言えはこの部活動」というような特色ある部活動を設定します。特色ある部活動は、令和6年度7月に、各小中一貫教育グループ内で、小学校5年</p>

生から中学校3年生にアンケートを実施し、その結果を参考にして決定します。令和8年度を目途に特色ある部活動は各学校に2つ設定する予定です。3つ目は、各学校で広域部活動を実施します。他の学校の部活動と一緒に練習をしたり、大会に出場したりするのが広域部活動です。

続いて、「地域と連携した活動」の2つの取組についてご説明いたします。図と併せてご覧ください。1つ目が、学校と地域団体が連携して実施する教室やイベントです。本市では、要望に応じて様々な所管が出向き、生涯学習に係る様々な市のサービスをご説明する「出前講座」を実施しています。その学校版として、学校の要望に応じて、地域団体が学校に出向き、様々な学習を提供するものです。現在、秋ごろの開始を目指してルールや環境整備を行っております。2つ目は、地域団体の多様な活動との連携です。本市には数多くのスポーツ・文化団体が存在し、多種多様な活動を行っております。本取組を推進することにより、子どもたちにとって、進学・卒業等、学校の節目で途切れることなく活動を続けられるとともに、自分の学校以外の生徒や多様な世代との交流により、人間関係や居場所が広がること、部活動には無い種目や複数の活動の体験が選択できることなど、様々なメリットがあると考えております。

次に「地域と連携した活動」として、先ほどお示しした全体像の右側の青い部分についてご説明いたします。地域と連携した活動は、国のガイドラインに基づき、実施をしています。国が示す地域のクラブ活動のこれらの方向性をもとに、本市でも取り組んでおります。令和5年度の部活動検討会議の内容を受け、令和5年度末に、子どもたちが参加できる地域活動の情報を市HPに公開しました。本市に数多くの地域団体があることは、本市の財産です。そのような団体に対し、中学生の受入れの可否等について、調査を行い、「子どもたちが参加できる地域の活動情報」として、情報を収集し、令和5年度末の3月から、市HPで公開しております。現在、スポーツ団体は69団体、文化団体は69団体、計138団体が掲載されており、順次追加しています。掲載する団体についてのルールをいかに整備するかや、学区ごとに偏りなく協力いただける団体を確保すること、また受益者負担の在り方や、学校部活動の受け皿になっているか等、課題もあります。本取組を推進することにより、子どもたちにとっては図のようなメリットが、そして地域にとっても、顔が見える関係性や地域コミュニティの活性化、若い世代を巻き込むきっかけとなること、など、様々なメリットがあると考えております。今後も、子どもたちの活動の選択肢を増やせるよう、各団体に相談をさせていただく予定です。

最後に部活動改革の推進期間でめざす姿についてです。学校部活動の再編を通して、「各学校において、『4つのカテゴリーの部活動』、『特色ある部活動』、『広域部活動』が実施され、生徒の活動機会を確保しつつも持続可能な学校部活動の体制が構築されている。」「各学校において、教員が「教員にしかできない授業準備等の仕事」に専念できる。」「生徒が他校の部活動に参加することができ、活動

の幅や人間関係が広がっていく。」という状態を実現することを目指しています。続いて、改革推進期間の姿とその後の、地域と連携した活動についてです。地域団体の多様な活動の拡充を通して、子どもたちの参加により、地域の団体の活動が活気づいていること、子どもたちが進学・卒業等、学校のふし目で途切れることなく活動を続けられること、子どもたちが自分の学校以外の子や多様な世代と交流し、人間関係や居場所が広がること、部活動には無い種目や複数の活動の体験が選択できることで、多様な経験ができること、そしてこれらの取組により「地域の子どもは地域で育てる」という意識が醸成されていくことが考えられます。説明は以上となります。

**平本部長**：ただいま事務局から説明がありました。「部活動改革の考え方・令和5年度（2023年度）部活動検討会議のまとめ」についてご質問ご意見等ございましたらお願いいたします。

**参加者**：昨年度の検討会の中で受け皿という考えではなくて、地域の団体と共立共存をしていくということを澤本会長からここで話があったかと思います。地域の団体が子供たちの受け皿ではなくて、一緒に育てていくってような考え方だったと思いますので、確認させていただければと思います。

**平本部長**：ご意見いただいた件についていかがでしょうか。今、説明の中で受け皿というような説明がありましたよね。受け皿ではなく共存するということでしょうか。

**田島課長**：はい。その通りでございます。

**平本部長**：それを確認いたしました。他に何かございますでしょうか。特にないようでしたら次へ進めさせていただきます。それでは（2）について事務局から説明をお願いいたします。

**事務局**：それでは、八王子市の部活動改革の考え方・令和6年度の4～7月にどんなことを行ってきたか、その動きについてこちらで説明いたします。「学校部活動の再編」の推進として、令和6年7月中に、各学校に対し「部活動設置計画書」の提出、児童・生徒に向けたアンケート調査の実施を依頼しております。部活動設置計画書では、各学校における最終的にめざす部活動の設置状況を全ての市立中・義務教育学校に提出してもらいます。そして、それを基に各学校に事務局が入り、共に指導・助言を行ったり、提出された設置計画を踏まえて、部活動指導員の配置を計画的に行っていく予定です。児童・生徒に向けたアンケートでは、小学校第5学年から中学校第3学年を対象に、「スポーツや文化・芸術活動について、どのような活動をしたいのか」、「現在、どのような地域の活動に参加しているか」というようなニーズや現状を把握します。なお、児童・生徒が地域の活動に参加している場合は、その内容を通知表に記載することで、児童・生徒の頑張りを記録に残し、評価するよう学校には依頼しております。部活動改革のガイドラインについては、国の新たなガイドラインを受け、本市としても、学校部活動に限らず地域の活動も合わせた総合的なガイドラインを関係各課と

連携を図り、策定してまいります。その他の取組としては、教職員や児童・生徒、保護者に対して、部活動改革の内容や先進的な取組について情報発信し、改革の推進に向けて普及・啓発を図ってまいります。本日お配りした保護者向け資料もその一環です。「地域団体の多様な活動の拡充」に向けた今後の取組として、各学校を通じ、学校利用団体に対し、中学生の受入れ等についての調査に取り組んでおります。部活動改革のガイドラインを事務局内で連携し作成中で、今年の秋頃に完成の予定です。また、情報提供の一環として、子どもたちを対象とした教室・イベントのお知らせを、市 HP のイベントカレンダーを活用し、全児童・生徒に配布されている 1 人 1 台の学習用端末からもアクセスしやすくしました。そして、出前講座や体験会の実施に向けても準備中であり、地域活動の場の確保に向けた検討も始めております。子どもたちや保護者が地域の活動を知り、より身近なものとして安心して参加できるきっかけづくりに繋がるよう、各取組を進めてまいります。説明は以上となります。

**平本部長：**只今事務局から説明がありました「部活動改革令和 6 年度（2024 年度）4～7月の動きについて」についてご質問ご意見等ございますでしょうか。

**参加者：**先ほど、地域の活動の方も学校の通知表に記載していただけるということをおっしゃっていただけましたが、これは生徒本人の申告で書いていただくということですか。

**中西指導主事：**まず小学校と中学校で書き方、書いていただく方法が違います。小学校においては、通知表に地域の活動を書く欄を設けておいて、保護者の方に記載していただきたい。中学校については、事前に生徒の参加する活動を把握するためのアンケートを実施し、それを学校で通知表に記載します。

**参加者：**小学生は保護者にとついうことは、配られたものを返す時に記入してから、例えば夏休み明けに持っていき、中学校は事前の申告でそのことを記載されるということでしょうか。もし途中でやめていたりしたときの対応はどうなるのでしょうか。考え過ぎでしょうか、今の時点では。

**中西指導主事：**そういうこともあり得ると思います。そういった部分については、現状まだそこまで詰められていないので、学校との連携を図りながら備えていきたいと思います。

**参加者：**わかりました、ありがとうございます。

**参加者：**昨年度の小学校長会と中学校長会で確認をした事項としては、小学校の場合は通知表を渡してそれで終わりというパターンがあり、戻ってこないことが結構多いです。私立の入試の際に小学校の通知表の印刷をして使うということありますので、地域で活動したものについては、その活動を書く欄に書いていただいて終わりということ。中学校の方は 1 学期ではなくて、2 学期の通知表に 2 つ程度地域の活動などを書いて、その入力先生方の働き方改革もあるので、スクールサポートスタッフにやっていただくということ。変更があったお子さんについては、3 学期に変更したものについて出していただいて、修正をするとい

うような方法で、校長会と教育委員会事務局との間で確認をしているという状況だと記憶していますが、いかがですか。

**中西指導主事**：申し訳ございません。おっしゃる通りです。

**参加者**：学校で把握されて、それを通知表に書くということだと、結局学校の先生の負担が増えているのではないかと思いましたが、スクールサポートスタッフの方がされるということで、その疑問は解消しました。ありがとうございます。

**平本部長**：他にございますでしょうか。何でも結構です。皆さんご発言よろしいですか。では、また次の意見交換のところでご発言いただければと思います。それでは次の次第5の意見交換について事務局からご説明をお願いいたします。

**事務局**：続きまして、ここまで部活動改革の考え方や、昨年度の検討会のまとめ、このような取組などにつきまして、ご説明させていただきました。それらの内容やお手持ちの資料を八王子市の部活動改革に係る検討事項やアンケート結果を基に、部活動改革の推進期間終了までに必要な取組・課題などにつきまして、皆様からご意見をいただければと思います。

**平本部長**：これから意見交換ということで、これまでの検討事項や課題、今後の取組についても幅広く結構ですので、ご意見頂戴できればと思います。お配りした資料の説明をお願いします。

**事務局**：今お配りしている資料の中で、「八王子市の部活動改革にかかる検討事項」という資料をご確認ください。(資料読み上げ)

## (2) 意見交換

**平本部長**：これまでの検討会議でも様々ご意見をいただいたところですが、まだまだ検討すべき課題としてあげてもらったものであります。様々な角度からご意見いただければと思っております。一番は子供たちが参加しやすいようにするためには、また楽しく継続して活動していくための環境整備は、どうしていったら良いかという点で、子供の視点も重要だと思います。

**参加者**：学校ごとの再編状況とありますが、現状どのぐらい学校ごとに再編されているかというのが分かっているならば、お聞かせいただきたいです。いかがでしょうか。令和8年度に向けてというふうになっておりますけれども、そこに向けて全ての学校をどのように再編し直す予定をされているか。

**福島統括指導主事**：昨年度、令和6年1月、2月、3月の毎月、保護者・地域・子どもに向けて、部活動改革に関するニュースレターを発行しております。その中で本市が目指す、この部活動の改革を説明しながら、実際、学校はできるところから昨年度末にすでに今年度からこのような形で取り組みたいということで取り組んでいる学校がある一方で、数としては多くの学校が、まだ今年度、話し合いをしていて、これからどういう形で4つのカテゴリーや学校として特色ある部活動を残していくとか、今悩んでいる学校が多いです。ですので、私としても実は昨年度、市内の副校長をしていましたが、今年度いよいよ学校が話し始める

にあたり、4、5月にかけて学校がどのように改革を進めているかというアンケートを取らせていただきました。今、そのアンケート結果を元に、それを市内の全校で共有をして、今度は先ほど説明の中にありました自分の学校がこの後どのように進めていくかということで計画書を7月の末に一度出していただきます。ただ、多くの学校が悩まれているのは自分の学校として残したい部活がある一方で、今入っている部活動の数が結構多い学校があります。その部活動を再編しながら、今いる子供たちをなんとか卒業までやってあげたいとか、この先、子供たちの数が減ってくるので、やはりこの部活動は残念ながら廃部にしていこうですとか、そこの調整を今年度中に学校ごとにやっていくこと。それから地域の実態に応じて、どの部活動がこれから地域に移行していけばいいと学校が考えているとか、そのあたりを今年度中に、できれば事務局も学校と一緒に入りながら、二学期を目標に調整をした結果、先程言った学校に出していただく7月締切の計画書は、今年度最後2月にその調整・修正を加えたもので計画を出していただいて、来年度からは市内全校が一応この方向で進んでいくということで、進めていきたいと思っています。ですので、現状で話をしますと、まだ今年度この形で進めている学校は非常に少ないです。小規模校はすでにもう学校の部活動数が、例えば5個の学校がありますので、その学校に対してはもう再編成等ができていく状況がございます。

**参加者：**実際現場の状況、校長会でいろんな校長先生とお話しする中で、やはりかなり悩んでいる。まず新しく私のように初めて校長になった方が、異動された学校で全く手つかず、うちもそうでしたが、部活動の改革は全く進んでいなくていきなり改革をしますという話。去年の年度末から話はしていましたが、結局、手つかずのまま預けられて、そこからこの3か月間をどうやろうかと考えている校長先生がいて、全くわからない。他の地域から来られた校長先生も情報すら全くない。うちは第1ブロックですが、そこでも新しく着任された校長先生がすごく勉強熱心で、去年のデータとかそういうのをどこにあるかと聞かれて、場所を伝えた。見てもらって、そこから始めていくのがまた1か月ぐらいですね。そういった困り感もある学校が結構あるのと、あとは今、人材の確保というところがやはり私もすごく苦勞していて、地域にそういった活動ができる団体がない学校が、部活を減らすことは可能だけど、子供たちが浪人になってしまう。そういった理由でなかなか移行できないというふうなお声もあるわけです。一方で、一生懸命部活動をやっている先生の行き場がなくなってしまう。兼職兼業ができないと人材が少ない中、他の学校で必要とされているのにできない。この間、澤本会長とお話をさせていただいた時に、「私は野球部の顧問やっていますが、教えられないので誰かいないですかね。部活動指導員だけじゃなくて。」という話をしました。そしたら「依頼状を出してくれれば紹介するよ。」というお話をいただきましたが、そういうシステムも校長先生は知らない。だから前に進みたくても、なかなか進めない状況がある。あとは施設の問題です。うちも保護者の方がテニ

ス部を見てくれるようになりましたが、うちは1面しかありません。富士森を借りに行くと、2,500円かかる。そういったことも負担になってきていて、どうしようかというような相談もあり、走りながら考えてはいますが、今一番校長先生が欲しているのが、恐らく相談するところがない。例えば、巡回で学校の悩みを聞いていただけるような方がいれば、こう考えているんだけどどうかなってという相談をして、「この地域だったらこういう形でやっていますよ」とか、「こういう人材がいますよ」「こういうクラブがありますよ」というのを紹介していかないと校長先生方の悩みがつかないのではないかなと思います。そういったところも考えていかないと、令和8年までには難しいのではないかなと思います。

**地域教育推進課長：**学校運営協議会を担当しております地域教育推進課長です。今現状のお話については、おっしゃっていただいた通り、課題も今の発言にありました。学校運営協議会の皆さん、地域の人材もたくさんいらっしゃることもご承知でしょうし、学校の運営について、どのクラブを残していくのかということも、子供たちの顔もよく見ていらっしゃる皆さんなので、ぜひ学校の方と、学校運営協議会の会議の中で議題に上げていただいて、その議論を、一緒に行っていただきたいというところで、また改めてお願いする予定であります。

**参加者：**ちなみに上柚木中学校では、小規模校ですので再編が進んでいるところではあります。校長先生のほか、現状のことを先生方にも伺ってきました。ただニュータウンですので、上柚木中学校と鑑水中学校と宮上中学校で、3校で、それぞれの部活動を共有するような形で進めるというお話で現状進んでいるというふうには聞きましたけれども、実際そのような形ではあまり進んでいないところがあると聞いております。小学校の保護者の方々に聞くと、この上柚木中学校ですと全体的に減ってしまっているのので、「上柚木中学校には部活動がなくなるのでしょ」という保護者の意見がすごく多くて、小学生の感覚ではそういうふうになって、上柚木中に行ってもサッカー部が無いのだったら別の中学校に行く。学校選択制ですので、そういったところで学校の偏りができてしまうのです。そういったことが現在すでに始まっています。ですので、本来来るはずだった生徒たちがこの部活動がないから他の学校行くということが始まってしまっているのので、再編を始めた学校と始めてない学校がある場合に、そういったところで不均衡が起こっている現状があるのは、皆さんに知っていただきたいと思いません。

**福島統括指導主事：**私もこの4月に着任して、地域の中で子供たちが進学先によって違ってしまうという現状を一番感じました。そこで事務局の方でも、この情報どちらかというと中学校にフォーカスを当てていたのですが、小学校の特に高学年の子たちが中学校にいった時にどのように変容するのかっていうところを伝えていきたいと思いがりましたので、今回子供たちにアンケート、自分がどんなスポーツがやりたいか、今入っている地域のクラブ活動・スポーツ活動・文化活動、各アンケートを取るときに一番初めに3分程度、今回事務局が発表し

た子供版と言いますか、そういう動画を作りました。この動画はこの後、ホームページに公開して、皆様にも見ていただくようにしようと思っておりますが、子供たちがまずその3分間の「今後、学校変わっていくよ」という動画を見まして、見終わった後にアンケートを取って、今やっていること、それから地域でやっていることを書いて、それを元に中学校の方で特色の部活動等の選定というふうなアンケートにしておりますので、おっしゃる通り、これから先は小学校にも発信をしていきながら、そして小学校の保護者、小学校の先生、その意思を変えないと苦しいかなと思います。これは、実は中学校も同じなんですね。中学校もやはり保護者の中には、これまで部活動で本当に先生達からよくやっていただいたというところで、これからは部活を残してほしいという声があります。ですので、今度は学校だけではなくて、地域でもスポーツ・文化ができるといったところで、保護者の意識を変えることも、大きな今回の改革の仕事だと思っております。そのためにはどのように地域に今やっている改革を広めていくのかが、課題かなと思います。今回前半はですね、私も着任して3、4か月の中で、校長先生方をはじめ、まず学校でやってくださってかなり無理をお願いをしていますが、今年度中に何とかそれが来年4月からみんなに変えていくというのが揃うような働きかけをしていきたいと思っております。その上で、私たちは役所の中にいると、どうしてもこうやっていけばいいだろうと固まってしまうがちですので、ぜひこの検討委員会で様々ご意見をいただきながら、地域だったらこういう発信方法ができるとか、そういう知恵をいただけるで大変助かります。よろしくお願ひします。

**学務課長**：今、福島統括から話がありましたけれども、私どもの方で、新入学のお子さんをお持ちの保護者の方に、通知を出す機会がございまして、来年度中学一年生になる保護者の皆様への通知を、4月に出ささせていただいたのですが、その際には部活動改革について今八王子市はこういうことに取り組んでいますというようなことを同封させていただいております。小学六年生の保護者の方々にも、今こういう改革を進めているということをお伝えできる手段として、そういう形で通知の方、出させていただいておりますので、また今後2回ぐらい通知するようなこともございますので、続けさせていただこうと思ひます。

**平本部長**：ほかに何かございますでしょうか。地域の活動の団体の皆さまからいかがですか。

**参加者**：最初から私たちは、鴨狩先生は「地域は受け皿ではない」というような話をされていましたが、感覚的にはそんな感覚で、学校クラブの方が編成されて地域と連携するのだったら、うちの方は協力しますよ、と最初から言っているので。先生とお話した時に野球の話が出まして、制度そのものとすれば、こういう団体の方に問いかけていただければ、こういう問題どうしましょうかっていう時には答えが出ると思ひます。連盟がたくさんありますから、そこへ来ていただければ叶うかどうかはわかりませんが、そういう動きができます。それと学

校の特色を出すという話が出たのですが、学校部活についての2番目のところに教員の人事異動に左右されない仕組みを構築とあります。今までの経験だと駅伝なんか見ていると、上手な先生がいる中学はすごく強くて、その先生がいなくなると、その中学は弱ってしまう。私は専門でないから人事異動がわからないので、いつまでもこの先生はいられるのですか。

**上野部長**：教員の異動に関しては、年数が決まっており、ある一定の年数が経つと、必ず違う学校に行かなければならないという仕組みになっています。例えばA中学校にその駅伝の先生が、10年だとか15年だとか長期にわたっているってことは、ルール上は難しいです。

**参加者**：そうするとこう人事異動に左右されない構築ってできるのですか。

**上野部長**：違う方法を今事務局で検討しているのだと思います。

**参加者**：例えば、どんなふうにしたいとかいうのを教えていただけますか。

**参加者**：先ほど言ったように、やはり兼職兼業はありではないかと思っていて、うちは一生懸命働きすぎてしまって残業時間がすごくて、毎月減らすようにカードを作ってみたら、だいぶ減ってきて、1番少ない人は6時間とかです。残業時間。きちんと整理をしたら。そうすると、労働基準法の中の45時間を超えていないので、お金はいらないと言っている先生もいて、本当に必要としているところに行って教えたいという方もいらっしゃる。地域の人材も限られていて、人を雇うにはお金がかかってくるので、例えば加住の方だと少林寺を市内の小学校の先生が教えに行っているというような、そういったこともあります。人材については、持続可能でいくと、そういったところが必要になるという議論が以前あったかと思いました。あとは広域部活動で部活動をシェアしていくことで、うちも野球で部活と同じ地域クラブを立ち上げ、教材費をかなり来年下げるので、お金の方は保護者負担になりますと言ったら、昨日その会議をしたらもう受け入れてくださったけれど、そうすると地域の野球やりたい子たちがうちに来て、部活の指導員もいますが、ガイドラインがありますから、そういったところを守りながら、ちゃんと持続可能なチームを作っていくという方法もある。ただ今広域部活動の拠点方式をやっているもやってもなくても部活動指導員がついてしまって、もったいないと思っています。去年の議論だと、そういったできてないところは、部活動指導員を返上して、広域であるところに貼っていくというような、そういった費用対効果も含めて、徐々に人材を集めていくというふうにしていかないと、持続可能な指導というのはなかなか難しいのではないかと、実際に現場に出てやってみて、思っています。

**平本部長**：やはりニーズを把握して、その要望に答える、マッチングするっていうようなことがある程度、学校・地域それぞれ必要になってくるのかなと感じました。教員の顧問の先生の兼業兼職については、検討していると思います。

**教職員課長**：今の教員の兼業の話もありましたけど、これからいろいろ人材の話になった時に、今現在もそうなんですけれども、教員の方が週末、有償でサッカー

一の審判をしているとか、そういったケースもございますので、自分の指導を尽くす、経験を活かして検証と言いますか、制度自体はそういったものが担保されておりますので、学校長が認めれば、教育委員会としてもそこを承認していくという、今までの仕組みを使った上で可能なことかなというふうに考えております。

**平本部長**：地域に、活動団体への具体的な要望を示してもらえれば、それにお応えして一緒に検討していただけるということですよ。具体的な要件と言いますか、そういったものがどういうことなのか、そういったものも今、いろいろアンケートを調査したり情報を発信したりしているというところもあります。

**参加者**：校長先生方の話を聞くと、地域の活動の一覧あるじゃないですか。団体の一覧の写真の、良いもの作ってくださったのですが、校長先生たちはどこにつないだら、子供たちが行きやすいかを考えるんですね。保護者の負担とかも含めて交通費がかかったりするの。あとはその時間割上、どうしても移動の時間がかかるから、近隣のところを探すのですけれど、この一覧だと自分の学校を中心とした周りのクラブがどんなものがあるのかっていうのは分からないので、結局調べなきゃいけない。この一覧を例えば学区ごととかその6圏域とか、近いところでやると探しやすいし、校長先生はアプローチしやすいです。そうすると繋げやすいし、経営上、先を見通して「これだったらバレーボールがとなげられる」とか、そういったことが私も実際第4地区の体力づくりの総会に出た時に、終わった後、バレーボールのお母さんたちが、「第四小学校でバレーボールやっているのだけど、五中のバレー部たくさん来てくれていますよ」と。知らなかったのです。そういうのがあるということがわからなかったのです。部活の保護者会でもテニス部、最初に立ち上げるっていう時に「地域のどこかないですかね」と保護者が探してくれたのですが、2つしか見つからなくて、それも80代の人とかがやっているようなテニス部ですから、なかなか難しいですよと悩みは共有しましたが、地域ごとの一覧があるとより地域に密着した活動になるし、地域の子供たちをそこで育てられるのではないかな、というふうに思っています。だからソートをかけて例えば、〇〇中学校区の周りにはこんなものがあるというのが分かるようにしてくれると校長先生はやりやすいのではないかと思います。

**スポーツ振興課長**：私も4月に参りまして、3か月経った中で、最初は40団体ぐらいのスポーツ団体を紹介できるような状況にあって、今でいうともう70団体近くまで上がってきているのですが、今、鴨狩先生おっしゃった通りでエリアに結構偏りがあって、これをじゃあ、地図上に落としたらどうなるのだろうというところは実際に事務局の方でもいろいろ相談しながら話をしていたところです。学校教育部の方ともいろいろ情報共有をしているところですけど、今お話があったような、エリアごとにどういうふうに散らばっているか、できるだけ早い段階で見えるような形にして、先生たちにお見せできるように努力していければ

と思っております。また種目も、まだ埋まらない競技は、どうしても地域が出てこないで、それについても随時。どうしても人的に限りがあるので、出向いて、お話を説明していくには限りがありますが、今のところ4つか5つの団体の総合型地域スポーツクラブの方に出向いて、お願いをして回っているところでして、これは並行しながら順次進めていきたいというふうに考えております。

**参加者：**とてもありがたいです。そういった偏りのある地域で、例えば少なかったら、そこに重点的に部活動指導員を配置して、学校の施設を貸して補完していくというふうにしていくと、その地域は助かるのではないかと。山間部なのか中心街なのかニュータウンなのか、いろいろあって、田野倉校長先生のところも相当苦勞はされているのだろうと思っております。うちでいうと、ひよどり山中は山の上ですから、すごく苦勞されているところがあって、そういった横のつながり、八王子市基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」の横串を通してもらって、費用対効果を含めながらやっていければ、結構うまくいくのではないかと思っています。

**平本部長：**今学校の中で、それぞれどういう部活を再編するかを検討していただいているところなので、そういったものと地域の活動の情報の整理を、照らし合わせながら今後、地域ごとに考えていく必要があると思いました。ご意見いかがでしょうか。

**参加者：**情報のPR、発信の共有化をしなければいけないと思っております。まとめて学校部活用の再編ということで、言いたいことはよくわかります。でもそれを学校に押し付けるのであれば、逆に市がコーディネートをしていただかないと、今後どうするのだろうという話と、保護者にもそうだし、地域の団体に対し、一番情報を持っているのが市だと思う。それをコーディネートして、「おたくの団体はどうするの」とか、「おたくの学校はどうしましょうか」というような語り合いの中で進めていかないと。これを見た感じだと、こういうふうにしたとしても、どうしましょうかというのが、先が見えなくなってきました。だからぜひコーディネーターとして、市の指導でやっていただくのが一番いいのかなと思っております。本当に少子化、これから厳しくなってくると思っております。でも、子供たちには均等にいろんなことが学べる機会を与えたいと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

**平本部長：**他にいかがでしょうか。

**参加者：**特色のある部活動、この学校ではこの部活動というのは、一度決めたらずっとそれを継続できるのかどうかということと、その特色ある部活動と広域部活動は、同じ括りとして例えば、第七中学校の特色のある部活動は男子バスケ部です。横山中学校が隣ですので、男子バスケ部七中に行きたいですということで、その広域部活動として横山中学校の生徒が入部することができるのか。それとも、特色ある部活動と広域部活動は括りが違うのか。その辺がわかりにくいかなと思いました。特色ある部活動は、教員が顧問としても入られますけれども、そ

の先生が異動された際にもう継続できないので、特色ある部活動は終わりですというふうになってしまうのか、特色ある部活動と打ち出しておきながら、なくなってしまうと、子供たちも部活動を重視している子っていうのは割といますので、その辺が曖昧だと特色ある部活動と言い切っているのかどうかというのは、疑問に思いました。

**平本部長**：今のご意見に何かお答えできるところはございますか。

**福島統括指導主事**：はい、お答えできる範囲でなんですが、学校がこのような改革を行うこと自体が、これまでの歴史の中で初めてだと思っています。これまでは学校長が、自分の学校では自分の部活というのを決めて、その中でやっていたところですので、こういう改革自体が始まっていくという中で、たしかに今のような疑問が出てくると思います。先日、教育委員会の定例会の中でも、この部活動改革を協議としてあげまして、議論をしていますが、ここの部分はまだ完全には固めきれれておりません。私たちとしてはこの改革を令和8年、9年に完成を考えているので、特色ある部活動はなんとかその学校として続くような形を取っていくような方向であります。顧問については確かに教員の異動というのが、長くても8年というふうにあるので、その中で変わってしまった時、その後には必ず部活動指導員を置くとか、顧問の代わりができる人を置く、もしくは教員の異動の中で競技に合った人が、公募という制度があるので、そういう制度等利用しながら、すぐなくなることがないようにやっていきたいと思っています。それからいわゆる広域部活動ですが、括りが難しく、校長先生方の多くは、これから子供たちの数としては減ってくるので、なんとか横山中、七中、陵南中、もしかしたら浅川中まで広げて、それぞれの学校長の中で相談をさせていただいて、この地域にこのバスケットボールを残す方法がどうにかできないかというところで、そうしたら自分の学校は特色あるではなく、広域の方で、合同でやる方向として探らせていただいています。本当に校長先生方がそれぞれ相談をし、地域としてどれを残していくか、または教員だけでやりきるのが難しい競技もあります。ですので、そこは地域の方に、剣道だったり柔道だったり、そのあたりを地域として、武道場がある学校に設置するとか、そのような方向で今模索中です。今お答えできる範囲なのですが、事務局の方は悩みながら模索中です。その中で先生たちだけじゃなくて、地域は、「お母さんたちこう言っているよ」ですとか、そういう声がいただけると良いと思っています。よろしくをお願いします。

**参加者**：こちらの保護者向け資料というのは、これはもうこういう形で決まりですか。

**福島統括指導主事**：出す方向でおりますが、一部、文言等が違っている所を修正予定です。

**参加者**：一保護者の意見としては、これが保護者の手に渡る時って白黒だと思えます。この文字がいっぱいあるお手紙、たぶん「はいはい」でポイってなりかねないと思います。せっかくこれだけ、いっぱい情報ありますが、配布物として子

供を經由した際に親の手元に行く率はとても少ない。校長先生方もよくご存じだと思いますが、非常に渡る率は低いです。低い中でやっと渡ったお手紙も忙しくて、文字が多いとか、パッと見わかりづらいと後回しにされ、忘れ去られ、そして聞いてないという話につながっていくこともすごくあると思ひまして、去年から説明をいっぱい、丁寧にしてほしいっていうお願いしていますが、なかなか保護者には届いていないです。ユーチューブの動画も3回分上げていただいて、私も見ましたが、ずっと見続けるのは厳しいところがありました。出した、やった、で情報は出していますっていう認識をされましても、出したっていうだけの満足感と言いますか、実質届いていないという現実があります。学校のホームページとか市ホームページにありますということは、お知らせしていただいても、なかなかそれが保護者に届かないというのが今の現実だと思いますので、なんとか工夫をしてほしい。私たちもすごくアピールはしていますが、こういう情報あるから見てくださいと常に言っはいますけども、そういった現実もあります。

**平本部長**：本当にお伝えしたい情報が多くて、なかなかビジュアルでパッと理解していただくことが難しいのが、この部活動改革だと思います。この資料につきましては、この会議での資料ということで、捉えていただければと思います。

**参加者**：去年までは、特色がある活動は今まで通りの活動日数でしたが、資料では週2日になっていることと、広域も2日になっていますよね。部活動指導員は年間600時間1,600円ぐらいの時給でやっいて、週2日で行くと結構予算が余ってしまうのではないか。ここは去年とどうして変わったかという説明はありますか。

**福島統括指導主事**：はい、申し訳ありません。ご指摘されたところが、事務局としても書き方に語弊がありそうなので、二番目の特色ある部活動と広域部活動については、現状の市のガイドライン内だと思っております。程度と今書かせていただいています、その注釈の中に、この後ガイドライン内だということなので、今ガイドライン上は平日休日1日ずつお休みをとるということをお願いしております。例えば部活動で言いますと平日最大4日程度、休日は1日程度だということなので、説明を加えたもの、また字が小さいのですが、直そうと思ひています。

**参加者**：全然批判するつもりではなくて、また難しい問題が出てきてしまったと思ひました。多分いろいろあつてこうなっているのだと思ひるので、よくわかりますが、校長は特色がある部活動を残す判断材料にして、活動日を多く取れるものが良いということで、私も9月から1日、また部活動を減らします。4日から5日の部活は1日減らして、早く帰れる日を作るのですが、それだけでも相当、保護者からいろいろお願いがあつて、その都度説明をするという形なので、26日に提出する特色がある部活の4つのカテゴリーを、今校長は一生懸命作っていると思ひますが、その時に「2日になっちゃったの」となった時に教員だとか、保護者への説明がまたそこで生まれてくるのではないか。校長会の方にはもう事前に調整を入られていると思ひますが、「あれ、どうしよう」という校長先生も出

てくるのではないかと心配しています。このあたりを、どうやっていくのか。

**平本部長**：そこは学校教育の中で調整していただいて。他にご意見はいかがですか。

**参加者**：数年前になりますが、日本レクリエーション協会はいろんなスポーツを始めました。それを広めようということで、会場がないので、学校を借りるしかありません。そこで翌年、いくつものスポーツを小学校中学校変えて、教えました。そのうち6校へ分散し、1校に対して4人ほどのメンバーで行って、いろんなスポーツをやりました。そしたら翌年、生徒を交えてやって良いかということで、生徒も交えてやりました。今年は、そのうちの4校だけですけども、毎週土曜日に指導に行っています。15：00から17：00まで、いろんなスポーツをやって、自分たちが行っていたのを生徒に教えるようになりまして、生徒の部活にそれができるようになりまして、今八王子の4校の中学では、部活でレクリエーション部として活動しています。今、その4校ともいろんな部活ができて、スポーツの部活ではなくて、レクリエーション部を作って、部活をやっているようです。今日もありましたが、普通のスポーツとしてもやってないような地域ですと、高齢者の方、グランドゴルフをやっていますね。ある地域の方ですけど、それを私が学校用に発明してやりましたら、「学校でやっていいですか」と言って、やっている学校もあります。あとは障がい者ですね、特別学級の子たちが部活に入れないから、その子たちのために、簡単なレクリエーションに交わるスポーツをやるとうことで、部活としてやっております。子供たちにとってはできる部活が1つできた。健常者ばかりじゃなくて、いかに部活に障害者も入れてやれるかということは、これから1つの別な課題として必要じゃないかと思います。その4校は毎週木曜日が多いですが、行ってやっております。もしそういうことが学校でありましたら、お金なんてことは言いません。みんなに言っているのですが、新しいスポーツを教えるのだから、お金を稼ぐのではなくて、ボランティアが当たり前だと。一銭ももらわないで私は4年ぐらやってます。学校に喜ばれていきますとも、子供たちが必要でやっているのです。この間、ある学校行きましたら部活じゃなくて、全校生徒を集めて体育館借りて、2人で行って新しいスポーツを教えてきました。一生懸命やっております。

**平本部長**：やはり知ってもらおうきっかけとして、出前講座のように、学校へ出向いて、まず興味を持ってもらう取組も非常に重要だと思います。

**参加者**：その特殊なスポーツでなくて、レクリエーション部に興味があるみたいですね。

**平本部長**：そういう事例なども、ご紹介していくというのも相談できればと思います。

**参加者**：皆さん方の学校でどうしても必要だという場合は、ボランティアで行って、こういうものがありますよと言うことが可能です。決められたスポーツの部活に入らない子が多いのです。だけど新しいスポーツだから、ライトにできると

いう感じなので、レクリエーション部も必要だと思いました。

**平本部長**：他に何かご意見ございますでしょうか。

**参加者**：この間のタウンニュースに上柚木中学校が載っておりまして、バリエーションスポーツ部というのが、現在ありまして、この先生にお伺いしてきたのですけれども、現在は1年生のみの9名でやっているそうです。毎回その9名が何をするかを話し合っ、その日の活動を決めるということですので、先ほどおっしゃってくださったようなものを取り入れることも可能だと思います。今年やった内容を聞いてみましたが、バレー、テニス、サッカーそれから、シンプル鬼ごっことか、アルティメット、バトミントン、今後は登山も考えているとおっしゃっていて、あとヨガ教室とかそういったものもやってらっしゃるということで、体操系運動系ゆる部活の1つの例となると思います。ただ色々問題点もあるとは思いますが。現在その9名でやっているからこそできることなので、これが50名になった場合にどうするかとか、先生方としても考えていかなきゃいけない。現在、顧問の体育教員が1人いるからやっていける状況ではありますけれども、人数が増えて、教員が2人とか3人についている場合にどうするかとか、問題点もありますが、1つの例としては今のところ先行しているところかとは思いますが。ですので、今おっしゃっていただいた、いろんなものを取り入れることができる部活動は、できる方法ではあると思います。ただ、問題点の1つ、今のバリスポ部は1年生だけですけれども、既存の部活動は後輩が入らない状態になっているので、例えばサッカー部はすでに試合負けてしまい、3年生が引退し2年生のみになってしまう。それから今まで頑張っていたバスケット部も2年生のみになって、2年生の下に後輩が入ってこない部活があります。その子たちにとっては、今まで先輩後輩だったのが、後輩が入ってこない。自分たちだけの部活になってしまう状況なので、先生方もその子たちの成長が、今後心配だとおっしゃっていたので、この部活動改革を進める中で子どもたちへの影響というのは、校長先生が考えていらっしゃると思いますけれど、もう少しそういったところを考慮していただければと思います。

**平本部長**：バリエーションスポーツ部のご紹介をいただいて、いろんな新しい可能性もあると思いました。その他にまだご発言いただけない方がいますか。

**参加者**：大学コンソーシアム八王子の鎌田です。大学がこの中学の部活動に絡むことができるのかということ、なかなか難しいところがあるというのが、正直な感想です。中には教育学部の学生とかで興味ある子というのはいると思いますが、大学のある立地とかも考えますと、八王子市広いですから、大学のあるエリア、ないエリアもありますので、そこは格差的なものが生まれるのかなというふうには思いながら、聞いております。そういう中で今回、中学校の部活動ということでお話になりましたが、将来的にこういうものは、先ほどから持続可能という言葉が出てきていると思いますが、要するに地域とか、広域でも良いのですけれ

ど、そういうところで部活動をやった子供が将来育って、また部活の指導者に戻ってこない、うまく循環していかないわけですね。全国的に動いているので、人の入れ替えがあったとしても、外から来ることも当然あると思いますが、地域の中にうまく人を定着させていくということも多分重要になってくるだろう。そうした時に、例えば小中高大社会人というようなところを一貫して、地域の中でうまく人をつなげていくというようなところを、どのように考えていくかは非常に大きなポイントかと思います。実際、部活動とは関係ありませんが、恐らく八王子地域に住んでいる方で、八王子の大学に行っている方は、そんなに多くはないと思うのです。これだけ学校たくさんありますけれど、おそらく中央線京王線に乗って、23区の方に憧れていってしまう方というのが結構いるのだろうと思いますけれど、そうなった時に地域からどんどん人が出てってしまう。また来れば良いのですけれど、そうではなく、地域の中でうまく循環して人を作っていく、育てていくというところでもう少し一歩高い視点というのでしょうか。そういうところからものを見るというようなことも、必要なのかなというふうには思いながら、お話を聞いていました。

**平本部長**：大学でも夏休みから冬にかけて、各大学で子供を対象にしたイベント講座のパンフレットを作っていたいただいて、それは学校にもお配りしています。

**参加者**：実際、これ歌と一緒になのですが、小学生向けと中学生向け高校生向けって123で並べると、どうしても真ん中の中学生っていうのがスポンと落ちるのですよね。ここについては、何かしらもうまい方法は考えていかないといけないところなのかなと思います。先ほどの地域で持続可能なという、人を育てて、地域でと言いましたけれど、要するに大学だと小学生向けはある意味やりやすいからやるのです。高校生は直結のお客さんですから、真剣になっていますけど、間の中学生はどうしても抜け落ちるところがありまして、そこについてどうやるか。我々大学コンソーシアムの課題でもありますけれど、地域の皆様と、行政などとも一緒に、そこに対して何か手を入れて、八王子の中学生は八王子の高校に行って八王子の大学に行って、というような流れが作れるようになると良いなと思っていますところでは。

**平本部長**：大学としてもそういう機会の提供をさせていただいていると思います。あとやはり学生が中学生に接するような、そういった学生の参加の場を、いかに作っていけるかといったところが、課題かなと思いますがいかがでしょう。

**参加者**：そうですね。今やられているところで、八王子市内でどの程度行っているかというのは、わからないのですが、結構学習支援的なところに入っている大学生というのが多いのですが、部活動支援となってくると、まだそこまではないのかなという気がします。学習塾になかなか行けない子たちとか、そういう子を集めてみたいなところは、いろんな学校でサークルとか、立ち上がっていますけれど、部活動というところまでは、まだなかなかいけない。そういうところが何かしら、この中学校の部活動改革の中で地域と連携したというような動

きの中で、学生の入りやすいような仕掛け、仕組みというものができていけば良いなと思っています。

**参加者：**もしお願いができるのであれば、今個別でアプローチをしようとしても、なかなか壁が厚くて難しいのですが、コンソーシアムの良さを活かして、例えば、サークルだとか、そういった大会で結果を残した人たちが、同じカテゴリーの下の子たちを育てるといような、そういった取り組みとして、大学である程度の単位として認めていただくとか。ある専門学校のパンフレットを見たら、すごくカテゴリーの専門学校、スポーツの専門学校が載っているのですが、その子たちに聞いたら、活躍できる場がないそうなんです。だったら市内のそういった学校に来た時に、単位として認めてあげるという、今インターンで8名きているが、そういう子たちに聞くとみんな卓球やっていました、とかってやるんですけど、インターンとしてちゃんと認めているのだから、そういった形で習ったことを活かすということを、大学コンソーシアムでたくさんの大学と話し合ってもらおうと、絶対2つや3つ大学がいいねと言ってくださると思っています。そういった形でやっていると、お互いウィンウィンになるのではないかと思います。もしよければ、そういった形をコンソーシアムの方で検討いただけると嬉しいと思っています。もう1つ言うと、地域のスポーツ団体にもそういった学生さんを派遣することもできるわけだから、うちの地域は本当にもう80代がたくさんいて、会合にも腰が痛くて来られないという方がいます。新陳代謝をしていかなきゃいけないので、そういった形で地域で貢献できる人たちを育てていけると良いと思います。

**参加者：**ありがとうございます。大学ではボランティア的に動くところもあります。今、単位というお話もありましたけど、一部の学校ではサービスマーケティングと呼んでいますが、地域で活動したりとか、いろいろな学外活動などで、単位を認めるというようなことをやっている学校が一部にはあるんですけど、多分そういうところがうまくマッチングしていくと、今おっしゃられたようなことは、進んでいくんだと。恐らくですけど、これからそういうものは徐々に進んでいくのではないかと思います。我々大学コンソーシアム八王子も、実はこれから大学をどうしていこうかと。少子化の波にのまれますので。そういう中で地域での活動等々をいかに正課の科目、いわゆる単位として、認めてもらうかというところについて、アプローチしないといけないと思っているのですが、カリキュラムを決めるのは、大学の教授会であったりとか、別の組織になってきますので、どうしても我々外部の組織からそこにやってくださいというか、もっと強い言い方だとやれという命令ができるかという、そのようなことはなかなか難しい状況でありますので、そこは話し合いを通じながら、なんとか良い方向に持っていければと思っていますところですよ。

**平本部長：**こちらからも大学の方にご理解をしていただいて、どういうことを目指しているかということもお伝えしながら、接点を広げていけるようなことにつ

いて、協力いただければと思います。

**参加者：**今の大学コンソーシアムさんのお話うかがっていると、地域側もスポーツ協会さんに属して、俗にいう協会とか連盟に入っているところというのが、かなり本格的にスポーツをされているところなのですが、それ以外の地域としては旧体力づくりから延長されている総合型スポーツクラブというものがあります。そこはまさに今のお話通り、高齢化問題を抱えています。だんだん年齢とともに体力も落ちていきますから、今現状としましては自分たちが楽しむためのスポーツを行っている状況。去年、この部活検討会の話に参加させていただいたときに、やはりここの会議の中では、事務局と学校サイドと、それから地域サイドの3つの話し合いののかなと受け止められるのですが、特に部活動改革としたときに今、地域スポーツ側の者たちというのは、もう私も部活経験から50年離れていますから、今の部活の問題点というところが非常にわかりづらいです。昨年一年間ずっとお話しさせていただいて、今年もまたこれからいろんな検討を進めていくと思いますが、できるのであれば、なるべく学校サイドからのお話は問題点をわかりやすく、今の課題、例えば今スポーツアンケートが小中学校でありましたけれど、この中に中学生が抱えている部活での問題課題不満というのが出てくるのかなと思って、注目してみたのですが、そのような内容はここには入ってきていない。むしろ何をやりたいかという希望的なアンケート結果はここに入っていますけれど、今自分たちが学校の部活動をやっていて、そこで抱えている問題というのは、この中からですと私共には見えてこないです。多分こういう話し合いというのが課題解決のための話し合いだと思います。新しいものを作るというのももちろんそうですけど、それは現状における課題を分析していて、その課題をプラス方向に直していくために話し合いを進めていくのだと思いますけれど、申し訳ございませんけど、私どもその課題がまだ事細かく分かりきれていないというところもありますので、さらに今後進めていく時に明確化していただけると、我々はわかりやすく、助かると思います。

**平本部長：**学校の部活動の改革という切り口で、この検討会議はあるのですが、特に高齢化が進む地域のスポーツ活動や芸術活動されている団体の今後の担い手作りというような切り口で、小学校高学年、中学生が参加できるような、そういった機会を作っていくという発想の転換で、アイデアを出していただいたり、受け入れていただいたりするとありがたく思います。

**参加者：**山間部の学校は仲が良く、ほぼ毎月集まって情報交換等をしています。先日も集まって部活動の話になって、どんな感じで進めていくか学校によって取り組みに多少の差はありますがけれども、大体、文化系の教養とか、スポーツ系の緩やか系というのは、文化系だったら美術部と何とか部が集まってクラブ部にしましうだったり、緩やか系の運動もいろいろなスポーツ、マルチスポーツ部を作ったり、そんな感じで落ち着くような傾向があったのかなと受け止めています。そこでやはり話題になったのは、この検討事項にもある移行のあり方という

ところで、ここで検討をしていくことになると思うのですが、どんな塩梅でしょうか。これから検討するのか、どんな方法が出ているのかというのが分かると、まさに話題になった内容の1つなので、情報いただければというふうに思います。

**平本部長**：生徒の広域部活動の際の移動のあり方については、今、情報がありますでしょうか。いろいろ意見を聞いたり現状を把握したりしているところでしょうか。

**福島統括指導主事**：今学校がやっているスポーツ振興センターの保険っていうのは、あくまでも学校の教育活動の中、今回は部活動になるのですが、これは子供たちが日頃の通学方法と一緒にものでなければいけないという部分で、歩いていくということについては、その中でもし怪我をしたら保険対象になっていますので、今市内でいうと学区の2キロを超える時には、自転車で大丈夫と言っている学校2校しか残っていません。逆に言うと、それ以外の学校については公共交通機関、もしくは保護者の送迎等で送ってもらうというふうになっていますが、今後この広域部活動が広がっていくことを考えていくと、移動手段についても考えていく必要がある。部活動というカテゴリーではなく、地域のクラブ活動すとか、地域の団体に所属している場合については、こちらが学校の保険とは別途、それぞれのスポーツの保険に入っているというので、そちらの方でどこまで保険対象になるかというところを、詰めていかなければいけないとは思っています。今お答えできる範囲ですが以上です。

**参加者**：別件ですが、アンケート小学校の質問2番にあるやってみたいスポーツはなんですかの、その他の中の「長刀」これは競技の「薙刀」じゃないかなって言うところですか。

**福島統括指導主事**：ご指摘ありがとうございます。誤りでした。

**佐藤部長**：田野倉先生は市の中体連の代表をされているので、新聞報道でも中体連の大会がどうだこうだというのもあったのですが、保護者も気になっていると思うので、今話せる範囲で結構ですので、中体連の大会はどうなっていくのでしょうか。

**参加者**：そもそも合同というのが、各学校に部活動があるけど、人数が足りないから一緒にやりましょうというものです。拠点校というのは、この部活動をやりたいけどうちにはないから、こっちの学校でやらせてくださいというものですよね。校長間のやり取りはありますけど。部活動の顧問が一生懸命で、ウェルカムな学校もあれば、そうではなく所属校の在籍生徒でチームを育てたいというので、必ずしもすべての顧問の先生が拠点でというわけにはいかない部分もあります。管理職からやってねと言われてやるかといったら、そうとも限らないのが難しい問題です。もう一つは、個人種目は基本的に合同チームを組めないルールがあります。日本中体連からの流れで来るのですけれども、あちこちに点在している強い子たちを集めてスペシャルチームを作るというのは、中学校の部活動には

そぐわないという規定があるので。逆に言うと、そういう子たちのために合同チームを作らせようよと、例えば私は剣道をやっていたのですが、全国大会につながる大会は合同チームはだめだけど、全国大会につながらない大会の時には合同チームで出ても良いというような、そんな形で対応はしているところがございます。

**参加者：**うちは今、野球3校で合同チーム組んでいるのですが、やりづらいです、正直言うと。会場、試合に出ると雨が降ったりすると連絡体制とか、移動とか練習会場は非常に大変で、雨降ってくれるなど前日から祈ってる状況です。片や、拠点校方式は私はこれから伸びてくるのではないかと思っていて。実は第一中学校の野球の子が、うちに来て五中として出ているのです、試合に。今回も、ある中学校で今年3年が負けて引退してしまったから2年生が1名しかいないので、うちに来てやりたいという話だったのですが、部活があると来られないです。中学校には野球部があるから、1人の。ここがなくなる限り、うちには来られないですね。合同組むしかないのですが、私が声をかけて、そこは廃部にしてもらって、うちに来てもらえれば五中として出て良いというのであれば、それでいいですよと話をして、休部にさせていただいて。今度からうちに来る予定。そうすると、中学校は1つの部活動が減ったけれども、そこで活動している子はうちで活動できるから、充実できる。今回は3年生の一中の子が引退したのですが、保護者から会場ですごく感謝されました。本当にこんなに充実して、他のことも協力できて本当に良かったと言ってくれました。やはりこの波が大きいなど。もう一つは、抱えちゃうのです。全部うちで。そうすると、うちの予算で用具を買ったりしているから、他の学校は部活がなくなった分は予算が浮きますが、それを学校教育に回して、うちは抱えてお金をどんどん出しちゃって、どうしようという話になっているのです。だからそういった付け替えというか、例えば市でボールを買ってもらって、うちにくださればよいと思います。試合出ると野球は公式球2球出さなきゃいけないのです。サッカーもなんですけど。そういった意味で抱えると、他は充実しますが、うちがすごく困窮してしまっていて、そういうところは、今合同は本当にやりづらいです。来年は今ある部活が半減するというデータがあります。現場ではもうちゃんとリサーチして、もう来年は半分になります。各学校で部活動改革進むから。じゃあ半分に入っていた子は、どうするのかという話になってくる。かなりスピードが今早くなっているから、抱えられる学校は少ないので、子供があふれてしまうのではないかと心配はしている。

**参加者：**今の話に付随して、昨日中P連で理事会がありまして、部活動検討会出ますので何か伝えたいことがあったらと聞いてきたのですが、やはり放課後に中学生が時間を持て余すと悪さする。それが一番心配というのは、もう去年も言われました。今年もやはり子供が放課後、時間を持て余すということが心配と、特に山間部の地域に、そういう心配を抱えている保護者の方はいらっしゃいま

す。この4つのカテゴリーの部活動の方も、1日1時間、平日1時間程度行って、顧問の先生もローテーションで組んで活動していく計画でしたら、できればなるべく活動の日を増やしてあげて、子供たちが小学校のうちは放課後子ども教室等で子どもの居場所づくりという形であると思うのですが、中学生になって、もう週2日の部活動以外は、フリーみたいなスタイルは、みんながみんな勉強に勤しむかと言ったらそうではない。ゲームにのめり込んでしまう時間が増えるだけではないかとか、外に出て悪さするのではないかとか、やはりそういった不安を持っている保護者の方はいます。ぜひそのあたり、いろいろ考えていただけたらありがたいです。お願いでした。

**平本部長**：会議の時間も1時間45分ほど経過をしておりますが、他に何かこれだけは言いたい、聞きたいというようなご意見ご質問ございますか。なければ意見交換はここで終了とさせていただきますと思います。ありがとうございます。

**事務局**：皆さん、本日はありがとうございました。次回の日程調整等につきましては、後日追ってご連絡させていただきます。